

特殊詐欺の認知状況（令和3年9月末）

- 認知件数は前年の約3倍！ -

1 県内の特殊詐欺の認知状況（令和3年9月末）

- 被害認知件数は**67件**（前年同期比+43件）
- 被害総額は**約2億2,490万円**（前年同期比+約1億3,781万円）

2 令和3年9月の認知状況

- 被害認知件数は**6件**（前年同月比+3件）
- 被害額は**約579万円**（前年同月比+約526万円）
- 手口は
 - ・ 架空料金請求詐欺 ～4件
 - ・ 還付金詐欺 ～2件

3 県内の特殊詐欺の傾向（令和3年9月中）

9月中は、架空料金請求詐欺及び還付金詐欺の被害を計6件認知しました。
 未だ県内全域で、還付金詐欺の前触れと思われる電話が頻発しています。

また、架空料金請求詐欺の手口として、パソコン画面に「ウイルスに感染しました。」などと警告文や連絡先を表示させ、ウイルス感染を装いウイルス除去費用として電子マネーの購入を指示したり、高額当選のメールを送りつけ、当選金の受取費用として電子マネーの購入指示したりして、電子マネー利用権をだまし取る事案が多く発生しています。
 電話やメールでお金の話がでたら慌てずに、まずは家族や警察に相談しましょう。

4 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和3年9月末(人)		
	男性	女性	計
0～19	-	1	1
20～29	1	2	3
30～39	-	2	2
40～49	2	1	3
50～59	4	10	14
60～64	6	6	12
65～69	4	19	23
70～79	1	5	6
80～89	1	2	3
90～	-	-	-
合計	19	48	67
うち65歳以上の高齢者	6	26	32

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和3年9月末 件数
振込型 （犯人が指定する口座に振り込ませる）	42
現金手交型 （犯人が直接現金を受け取る）	4
現金送付型 （郵便や宅配便などで現金を送らせる）	-
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	20
キャッシュカード手交型	1
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	-
合計	67